中島　藤美　議員

問 校区まちづくり会議の早期設置を求む

答 住民の自治意識を作り出し、職員の理解を深めることが必要だ

校区民で作りあげる大蔓まつりは、まちづくりの先進モデル

補助金、運営方針などを立案し、決定することが必要だ。

4月の人事異動で専任の職員を配置し、基本計画策定に取り組んでいく。

問 2億円程度の事業規模ということで、整備計画づくりを進めるのか。

町長　2億円はあくまでも概算事業費である。

基本計画のなかで、規模がある程度具現化すれば、情報を提供し、協議をお願いしたい。

校区まちづくり会議

問 各小学校区に役場職員を配置し、「校区まちづくり会議」を設置することは、とてもよいことだ。担当職員を決めて、5月号広報に掲載してほしい。

町長　この組織の目指すものは、住民の皆さんが自ら地域課題を掘り起こしたうえで、課題解決のために何をすべきか、また、地域がどうあるべきかを議論してもらい、それを地域計画として作り上げ、事業として実践していくことである。

この地域計画は、町のマスタープランにも反映させ、積極的に財政措置を行っていきたい。

中堅職員もしくは幹部職員を中心に地元の校区ごとに配置し、各地域の課題の対応も、その校区のなかで柔軟に対応できる体制をとっていくべきと考える。

先進地の事例をみても一朝一夕には進んでいないようだが、住民の皆さんの自治意識を作り出し、職員も十分に理解を深めたうえで進めなければならない。

広報への公表はしていきたいが、組織の整備上、時期は少し後になると思う。

就業改善センター

問 町長はローカル・マニフェストで、就業改善センター改築工事を重要施策の優先順位一番であげているが、この具体的な内容を聞く。

町長　施設の建設と利用については、基本構想、基本計画、基本設計、実施設計、建設工事、施設運営の順で進めるが、このうち基本計画が最も重要である。

基本計画のなかで、施設の目的、時期、規模、予算、

農業振興

問 農業所得の増加につながる農業振興策を聞く。

町長　循環センターの液肥やきのこ栽培で出るおがくず堆肥を利用した資源循環型農業を推進し、「くるるん」をシンボルとした農産物のブランド化を確立すること、そして、消費者の視点に立ち、企業的経営感覚をもった農業の担い手を育成することが重要だ。

経済課長代理　資源循環型農業を推進するため、国県の補助事業を活用し、きのこ栽培で出るおがくず堆肥や豚ぷん堆肥などを散布する機械や運搬車を導入している。

また、これらの資源を活用したアスパラガスやいちごの栽培を推進するため、ハウスリース事業の実施や省力化施設の整備に取り組んでいる。

すでに麦栽培には「くるるん」の液肥を使用し、米栽培での使用も計画している。

安心安全で、特色ある米づくりを目指す。